

菜の花にさそわれて

(うえはらゆうき)

みかん山でひとり、作業に取り掛かっていると、斜面下の国道に停まった車から降りてきた男性が、石垣の階段を上ってきました。おや、何事だろう。それとなく気に留めてみると、「こんにちわー！ あんまり菜の花がきれいなんぞ、写真撮らせてくださいや」と声をかけられました。「ああ、そうですか。どうぞ」と答えます。

モノ好きがいろいろある。悪気ではないのだから、まあいいか。内心ではあまり気乗りしません。というのは、このあたりでは、菜の花が生えているようでは大した仕事はしていないと、悪口の代名詞のようなもの。この日は皮肉にも、この菜の花の草引きをしていたところだったのである。

この園地は昨年まで、もう10年以上も耕作放棄されていました。もみくちやになっていたツル草や雑草は、一年かけてきれいに整理してきましたが、そのかわりに今年は一面に菜の花が咲きました。これまで飛ばされてきた種が光を浴びて、一気に芽吹いたのでしょう。草刈り機では根株が残り、来年にはまた元の木阿弥。地表面に広がる、ほかの良草を刈り飛ばしてももったいないので、少し大変ですが、手で引き抜くことにしたのです。

作業を進めながら、写真を撮り終えた男性

のおしゃべりに付き合っていると、どうもこの人、ただの観光客ではないようです。それどころか、このみかん山のすぐ目の前に広がる宇和海湾を挟んだ向かい側の半島で、木竹園を経営する大先輩であることが分かりました。ときどき写真スポットを探しながら、ドライブに出かけるのだとか。菜の花が咲き広がる美しさに魅かれたのはもちろんで「すか」、きっと、いまどき除草剤も草刈り機も使わずに、土まみれに這いつくばる僕の姿にも興味を覚えたのでしょう。農業のこと、病虫害のこと、自身が患った病気、家族、国政と、おしゃべりの内容は多岐に渡り、そうこうしているうちに、「写真撮らせてもらったけん、手伝おうねい」と、一緒に菜の花を引き始めました。予定よりもずいぶんほかどって、最後には「早よ止めなよ」と、このあたり特有のぬきういの言葉を残して、立ち去っていきました。思いもよらない、愉快的な出会いでした。

残った分は、お弁当持参で段畑ピクニックを兼ねて、僕たち家族にママ友の一人も参加して、みんなで手引くことにしました。作業が作業だけに少し汗ばみます。日当たりの好い場所なので気持ちよく、きっと子どもたちも楽しめただろうと思ったのですが、現場に着いた長女の梅音(うめお)が、ある菜の花の群生に空間を見出し、「これ梅音の部屋だからとらないで！」と主張し始めたのは予想外。悪気はないのだから、これも、まあよし

としなければ。弟の朱座(すくら)もさっさと真似して、お昼ごはんは彼の招待を受けてみんなでこの部屋に集まり、ひろげで食べることにしました。息子はとても満足気。

陽が傾きかけたころ、ようやく作業も終了。若菜とママ友は、まだ若い菜花のほか、ヨモギやノビルなど、おかげの野草も摘み集めることができたようです。

園地は見違えるようにきれいになりました。あとは梅音と朱座の「部屋」を残すのみ。これくらいはたやすいものですが、ここには今後二百数十個の穴を掘り、苗木を植え、それを数年かけて育て、そこからずっと、付き合っていくことになります。これはその、最初の、ほんのひととき。このうれしい思い出が、この場所で、文字通り実を結び、景色を彩り作っていくということが、いまから楽しみです。

(2014年3月)



なんち屋

〒797-0113

愛媛県西予市明浜町狩浜 3-1404

電話: 0894-89-5050 (FAX 兼用)

web: <http://doratomo.jp/~nancha/>

e-mail: nancha@sheep.dog.cx